

大項目	3	持続可能な地域づくりと私たち			
中項目	3-2	生活圏の調査と地域の展望			
小項目	3-2-1	身近な地域の調査と地図化			
細項目 (発問)	3-2-1-5	地理的な見方・考え方による身近な生活圏の探究手法の理解			
作成者名	松井秀郎	作成日	2023年 4月 15日	Ver.	1.1
キーワード 5~10個程度	生活圏 観察や野外調査 地理的な見方 地理的な考え方 地域の特徴 事象の偏在 過剰な現象 地域問題 地理的な課題				

発問の意図と説明

1. 高等学校学習指導要領(平成30年告示)における学習の集大成とは何か。

高等学校学習指導要領の大項目 C 中項目 (2)「生活圏の調査と地域の展望」は、「高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 地理歴史編」(以降では「解説」と略す)において、「地理総合」の学習の集大成として位置付けられています。また、「生活圏の調査」については「内容の取扱い」で「これまでの学習成果を活用しながら」と示されており、「解説」の学習指導の展開例では、小・中学校社会科の「地域調査」の経験を踏まえて調査する課題を決め、「小・中学校社会科で行った地域調査学習をより深めるスパイラルな学習となるように配慮すること」とされています。こうした本中項目の位置づけを踏まえて、ここでは小・中学校社会科での「地域調査」の学習成果並びに、「地理総合」での大項目 A 及び B で習得した知識・技能や視点を活かした学習活動が求められています。

また「内容の取扱い」では、中項目 (2) では「生活圏の調査」については、その指導に当たって、これまでの学習成果を活用しながら、生徒の特性や学校所在地の事情などを考慮して、地域調査を実施し、生徒が適切にその方法を身に付けるよう工夫すること。」となっています。また、「解説」ではこの中項目 (2) は「生活圏の課題の解決に向けた取り組みを考察、構想することで、日本や世界の諸課題を考察し、日本の国土像を探究する「地理探究」での学習とも結び付け位置付けとなる。」とされています。

身近な地理的空間である「生活圏」では多種多様な事象や現象がみられます。これらは相互に関連し、その地域ならではの特徴を持っています。また地域における事象の偏在や過剰な現象により地域問題が発生している場合もあり、これらの改善・解消が地理的な課題となっています。「内容」の小項目ア (ア) では「生活圏」の事象や現象に関して、生徒が適切な方法を用いて観察や野外調査、文献調査などを行い、これらの特徴の把握・認識を基に、「社会的事象の地理的な見方・考え方」で探究する手法などについて理解することが求められています。そして、ここでの学習成果を「内容」の小項目イ (イ) の「生活圏」の地理的な課題についての学習内容に繋げることとなります。

(1) なぜ、「生活圏」での調査が求められているのでしょうか。

「生活圏」は、生徒自身の興味・関心を喚起しやすい最も身近な地理的空間です。ここで実際に観察や野外調査、文献調査などを行うことによって、地域の事象や現象の把握・認識を生徒間で共有することが可能であり、それらによって学習内容の理解をより深められることが挙げられます。

また生徒の生活行動圏である「生活圏」においては、生徒が日常的に見聞・体験する様々な事柄からそこに存在する地理的な課題を見いだして、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)によって、その解決策や改善策を考察し構想するという、一連の学習活動を効果的に行えることが挙げられます。

なお、「生活圏」での調査に当たっては、「解説」に示されているように、「例えば、学校周辺の狭い地域を設定したり、課題によっては学校の通学圏など一部生活圏を越えた幅広い地域を設定したりするなど、弾力的に考えることが大切である。」とされています。

(2) どの様に「生活圏」での観察や野外調査を行って地域問題や地理的な課題を見いだすのでしょうか。

生徒自身が「生活圏」で行う観察や野外調査では、生徒によって直接に調べられた独自の資料が得られます。こうした地域の観察では、どの様な事象や現象が、どこで、いつから観られているのかという生徒自身の気づきが生きてきます。**表1**の「地理学における調査の基本(地理学の8段階)」(稲永幸男)が参考となります。

図と表のページ

表1

地理学における調査の基本（地理学の8段階）

地理学の8段階	調査内容と調査手順										
1 何が 「何が」(事象) を指定すれば系統 地理学へ	<p>何があるか・何を見たか → 何を調べるか → 事象（広義の指標）を決める 単一事象から複合事象 → 総合事象へ</p> <table border="0"> <tr> <td rowspan="4">〔直接目で 見える ものから〕</td> <td>(1)直観を大切に</td> <td>(i)景観的調査から</td> <td rowspan="4">〔目に見え ないもの まで〕</td> </tr> <tr> <td>(2)自分自身で見る→考える</td> <td>(ii)簡単な聞き取りから</td> </tr> <tr> <td>(3)何かを見る努力をする</td> <td>(iii)既存のデータから</td> </tr> <tr> <td>(4)同行者と議論してみる</td> <td>(iv)過去の文献から</td> </tr> </table>	〔直接目で 見える ものから〕	(1)直観を大切に	(i)景観的調査から	〔目に見え ないもの まで〕	(2)自分自身で見る→考える	(ii)簡単な聞き取りから	(3)何かを見る努力をする	(iii)既存のデータから	(4)同行者と議論してみる	(iv)過去の文献から
〔直接目で 見える ものから〕	(1)直観を大切に		(i)景観的調査から	〔目に見え ないもの まで〕							
	(2)自分自身で見る→考える		(ii)簡単な聞き取りから								
	(3)何かを見る努力をする		(iii)既存のデータから								
	(4)同行者と議論してみる	(iv)過去の文献から									
2 どこに 「どこに」を指定 すれば地理学へ	<p>その事象はどこにある（あった）のか・どんな所にある（あった）のか</p> <p>事象の存在する場所が限定されないと地域事象にならない。 単なる事象では地理学の研究対象にならない。</p> <p>地域をどのように設定したら良いか。 → 地域のとり方によって、共通性が個別性になり、個別性が共通性になる。</p> <table border="0"> <tr> <td rowspan="2">場所は</td> <td rowspan="2">〔点的見方 線の見方 面的見方〕</td> <td>〔絶対的位置</td> <td rowspan="2">〔広域的→部分地域→全体地域 縮域的→全体地域→部分地域〕</td> </tr> <tr> <td>〔相対的位置</td> </tr> </table>	場所は	〔点的見方 線の見方 面的見方〕	〔絶対的位置	〔広域的→部分地域→全体地域 縮域的→全体地域→部分地域〕	〔相対的位置					
場所は	〔点的見方 線の見方 面的見方〕			〔絶対的位置		〔広域的→部分地域→全体地域 縮域的→全体地域→部分地域〕					
		〔相対的位置									
3 いつ 時間の限定	その事象はいつからあるのか・いつ消えたか・いつ消えそうか 現在時点を中心に過去にさかのぼる・未来へ発展する										
4 なぜか 地域事象の再認識 と立地の理由 の暗中模索	<p>1 その地域事象が、ここに、現在（何年前から）あるのはなぜか 2 こんな場所に、こんな地域事象が、現在（何年前から）あるのはなぜか 立地の理由 → こうではないか・ああではないか → 考えられるだけ考える</p> <p>その時、自分の考えを助けるため簡単な聞き取りを数回（聞く人を変え、場所を変え）やってみる。 試行錯誤をする。</p>										
5 こうだろう 仮説の設定	<p>例1) 飛騨高山も市役所の前に「大壱間病舎」という看板を見た。その看板から「高山の古さ」という仮説を引き出した。→発想法</p> <p>例2) 昭和45年6月1日現在全国3364市区町村について、小売業商店数を人口との関係（2元1次回帰残差による地区化）で地域事象の認識をする。そこから、①独立地方都市の設定 ②大都市都市圏の設定など</p> <p>1 仮説は数個であっても良い、単一仮説から複数仮説の設定 2 具体的仮説から抽象的仮説まで いずれも地域的な仮説でなければならない 自分や他人が設定した仮説は真実であろうか。仮説を確かめる調査をする。</p>										
6 ほんとうか 検証的調査	<p>1 聞き取り調査によって確かめる。（無作為抽出・有意抽出） 2 実地調査によって他地域と比較しながら確かめる。 3 既存の資料からデータを求め、他地域と比較しながら確かめる。 4 調査対象地域の既存の資料を収集して確かめる。 5 調査対象地域で調査表作成し、調査して確かめる。 6 過去の関連文献と比較しながら確かめる。 7 その他 その際、文学的表現による方法、統計的表現による方法いずれも導入する。</p>										
7 何がいえるか 地域空間の理論	<p>地域空間における理論を把握する</p> <p>1 その地域事象のある地域において、設定した仮説の真実を通じて 2 ある地域に存在するいろいろな地域事象から設定した仮説の真実を通じて (1)地域空間の秩序 (2)地域空間の構造 この2点において、(a)共通性→一般性(b)個別性→特異性 を探求する。 要するに、地域事象を通じて地理学の本質をつかむ。地理学の本質を通じて、地域事象の得意をつかむ。</p>										
8 問題があるか 地域に関する諸 問題への対応	<p>ある地域における地域事象から地理学の本質を明らかにしたならば</p> <p>1 その地域事象はその地域においてどんな問題があるか。 2 その地域にはどんな地域事象に現在、どんな問題があるか。 そして、諸問題はそれらの地域にとって、プラスの問題があるか、マイナスの問題なのか、地理学の本質を基にして、現実の地域の諸問題を考える。そこから、現実の地域に関する諸問題に対策案が作成される。</p>										

<https://www.gifu-net.ed.jp/kyoka/syakai/09chiri/2004chiikichosa/02chousanokihon.pdf> より引用（この表の2頁目は省略。なお、参照文献1二宮書店『Field Note（改訂版）』の表記とは一部異なります）。

文章のページ

「何が、どこに、いつ、なぜか、こうだろう、ほんとうか、何がいえるか、問題があるか」という8段階に設定された調査・思考の進め方は、中項目(2)の「探究する手法」の学習に効果的です(参照文献1)。観察や野外調査は、有名観光地や地場産業の発達している地域など、教科用図書で取り上げられているような極めて特徴のある地域だけではなく、どの地域であっても、誰でもが実施できる調査方法です。

「生活圏」に同質・同様の事象や現象が複数観られるような場合には、まずはこれらの事象や現象の存在する場所や発生個所を分布図に表します。例え「生活圏」に一か所で見られないような事象や現象であっても、分類基準を変えたり、周囲に地域的範囲を広げて観察すれば、複数の分布を確認することができます。そして、「生活圏」や「生活圏」の周辺地域における個々の事象・現象の広がりから、地域的偏りや地域的な結び付きを把握できるようになり、地域問題や地理的な課題の認知、また地域的性格(地域性)の認識につなげることができます。

さらにインターネット上に公開されている多種多様な情報提供サイトから、生徒自身が地理情報を入手して、統計分析やGISによる地図化、検索ワードを設定・入力して各種の資料を得たりすることもできます。その際、信頼のおける公的機関などのサイト以外から得た新聞記事・評論・報告書・史資料や論文などについては、検証・考証を確実に行って利用することも大切です。

地域問題については、生徒自身の日常生活での見聞や体験から観取する場合もあります。「生活圏」には、日頃利用していた店舗の閉店によるいわゆるシャッター商店街があったり、大規模小売店舗の新規開業により人や自動車などの流れが変化して交通渋滞の起きやすい場所ができたり、朝夕の一定時間に交通が集中して交通事故の頻発する場所があったり、駐車場・駐輪場の不足から路上駐車・放置自転車の多い道路があったり、火災の際に被害の大きくなる恐れのある木造住宅密集地域や空き家の多くみられる地域があったり、街路灯やゴミステーションの配置とサービスの実態との不適合により住民の快適性・利便性の失われている場所があったり、梅雨・秋雨や台風シーズンに浸水被害の大きな地域があるなど、場所や地域によって様々な問題を見出すことができます。

また新聞・テレビやインターネットなどでも、「生活圏」やこれを取り巻くより広い地域での地域問題を知ることができます。例えば少子高齢化の進展、外国人の定住、地域の祭りの継承、地場産業の変化、様々な産業の後継者不足、各種の災害対策などに関わる地域問題などについては、「生活圏」内だけにとどまらない、より広い地域の問題としても捉えられます。

地理的な課題については、現状を個々の事象・現象の地域的な結び付きや広がりから捉え、「生活圏」の様々な地域問題に具体的にどの様に対処していくかを、多面的・多角的に考察することが求められています。また、自治体やその他の団体でも種々の報告書が公開されており、これらから地理的な課題を読み取ることも可能です。これらを最大限に活用する一方、各種報告書の引用のみに終始することなく、地理的な課題の認知や、これらの解決策や改善策などの検討については、生徒自身の体験や独自の視点から発想して地域の持続的発展を展望することが求められています。

その際、「探究する手法」として生徒自身が地理的な課題を設定し、情報の収集、整理・分析を行って、立てられた仮説を検証してまとめる一連の活動の中で、新たな発見や理解の進化を見だし、改めて仮説や場合によっては課題を設定し直し、情報の収集、整理・分析を行っていくというスパイラルする学習の姿が想定されています。

2. 「生活圏」での観察や野外調査、文献調査などの事例

(1) 岐阜県立加納高等学校の周辺地域での観察や野外調査

ここでは、岐阜県立加納高等学校周辺地域を「生活圏」とする事例を示します。本事例は、2003(平成15)年に岐阜県高等学校教育研究会地理部会で行なった「地理的見方・考え方 地域事象の教材化」(松井 秀郎)の講演を基として現行学習指導要領に合わせて再構成しています(次ページの図表のページに講演内容の目次を表示)。ここに掲載している写真は、2003年当時に松井が撮影したもので、現時点とは約20年間の隔りがあります。本文中ではGoogle ストリートビューを参照して、これらのその後の変化について文章化していますが、読者の方はお自身で参照をお願い致します。当時の講演内容は、岐阜県の学校間総合ネットに公開されています(参照URL1)。

「地理的見方・考え方 —— 地域事象の教材化 ——」*

文部科学省 教科書調査官
松井 秀郎

〈目次〉

- I はじめに
 - II 高等学校地理の新学習指導要領と「地域調査」
 - III ふたつの「二」から発想する
 - 1. 加納高校周辺地域の「二」
 - 1) 岐阜市における文房具関連の店舗を地域事象とした教材化
 - 2) 岐阜市・大垣市・高山市の文房具関連の店舗分布から考える
 - 2. 細畑の「二」
 - IV 小学校からなされている「地域調査」とその段階的継続
 - 1. 小学校・中学校での地域調査に関わる学習指導要領と教科書記述
 - 2. 高等学校での教科書記述と教科書の性格
 - 3. 「地域調査」の継続性と地理的技能や地理的な視点や方法の定着
 - V 「地域調査」における地理的な見方や考え方
 - 1. 地域の顔・骨組み・土地柄
 - 2. 「地域調査」での観察の基本
 - 3. 地理的な見方や考え方の基本
 - VI 「地域調査」から地域像を紡ぎ出す
 - 1. 大学での野外実習の事例と高校での「地域調査」への援用
 - 1) 三重県上野市の事例
 - 2) 山口県萩市の事例
 - 2. 加納高校周辺地域の地域像
 - 3. 岐阜市東郊の中山道周辺地域の地域像
 - 4. 四つ角の看板からみた不思議
 - VII 足下から広げる地理的認識
 - VIII おわりに
- 【謝辞】
- 【注】
- 【参考文献】
- 【配付資料 No.1, No.2, No.3, No.4】
- 【プレゼンテーション資料 No.1, No.2, No.3】
- (本文に関連の強いもののみを掲載した。全容はCD-Rを参照されたい。)

2003（平成15）年に岐阜県高等学校教育研究会地理部会で行なわれた「地理的見方・考え方 地域事象の教材化」（松井 秀郎）の講演目次

https://www.gifu-net.ed.jp/kyoka/syakai/09chiri/2003chiikichosa/2003chiikichosa2_Matsui.pdf

より引用

文章のページ

a. 岐阜県立加納高等学校について

岐阜県立加納高等学校は、1948（昭和23）年に、岐阜県加納女子高等学校と岐阜県岐阜第二高等学校とが統合されてできました。加納女子高等学校の校名は、現加納大手町で1916（大正5）年に開校した岐阜県立加納高等女学校が2度の改名を経て定められたものです。また岐阜第二高等学校は、1928（昭和3）年に岐阜県女子師範学校附属代用加納尋常高等小学校内の1棟を仮校舎として設置された岐阜県岐阜第二中学校が、1929（昭和4）年に現加納南陽町（現在の加納高等学校所在地）に移転して、1948（昭和23）年に学制改革により岐阜第二高等学校となったものです。どちらの学校も伝統校であり旧加納町の中心街から現在地に移転してきたとも言えます。

b. 「生活圏」としての加納高等学校周辺地域の位置

加納高等学校周辺地域を「生活圏」として観察や野外調査を行うと、まずは事象として学校の校地そのものを挙げるができます。学校の位置を「ひなたGIS」（宮崎県の運用する統計WebGIS）によって、明治から昭和初期測図の地形図と地理院地図によって示すと、それぞれの中央の十字マークの位置になります（[図1](#)、[URL2](#)）。この右図は地理院地図の淡色地図図であり、左図の中央から東側半分は五万分一地形図岐阜（明治二十四年測圖之縮圖及同三十九年測圖昭和七年第三回修正測圖之縮圖）で、西側半分は大垣（明治三十九年測圖大正九年修正測圖）です。[図1](#)の左側で見ると、明治末期から昭和初期頃には校地の周囲にも水田が見られるなど、校地は町はずれに位置していました。2003年当時には学校の正門前に二中堂という文房具店がありました（[写真1](#)）。この二中堂は店名からして第二中学校の設置頃に立地したと思われます。平成以前には学校の周囲には文房具店が立地している場合が比較的多くみられましたが、その後にはコンビニエンスストアの発展もあってか少なくなってきました。二中堂もGoogleストリートビューで見ると、2012年5月時点では表看板の文字も無く、建物東壁面に「書籍 雑誌 二中堂書店」と読み取れる古い看板があるのみとなっています。かつての「二中堂」は、加納高等学校の前身である第二中学校の存在を示唆する存在であったと言えます。

次には加納高等学校の北西側に位置する墓地を挙げるができます。この墓地の近くには無人の墓石展示場がありました（[写真2](#)）。この時点でも墓石展示場は寂れていて、墓地での墓石の新規購入者は少ないのではないかと想定されました。Googleストリートビューで見ると、2019年8月までは墓石の展示がありましたが、2020年12月時点では移転の案内板が出て閉鎖されていました。そして2021年10月時点では更地となっています。

さらには学校の東側には猿田彦神社が鎮座しています（[写真3](#)）。以下では、これらのような2003年時点に学校周辺で観察した事象やGoogleストリートビューで知り得た変化から、どの様に地域問題や地理的な課題の認知、また地域的性格（地域性）の認識につなげることができるのかについて考察してみましよう。

学校は、新規設置の場合、適切な位置や校地として必要な広さを確保できる場所に立地します。第二中学校が移転してきた1929年頃の校地の位置は、加納耕地整理組合地区の南側に続く街区割りの外となっていました（[図2](#)、[URL3](#)）。また、校地の北西側にある現岐阜市宮穴釜墓地（現加納堀田町）は1913（大正2）年に完成した約4,500坪・1132区画の墓地で、これも墓地設置の場所選定の際には、この地域が市街地の外に位置していたことを示しています。校地の東側には猿田彦神社があります。この神社は江戸時代の加納城（1601（慶長6）年に徳川家康が築城）の南西方向の裏鬼門の守護神として置かれたとされており、岐阜市教育委員会などの作成した「加納城下町地図」でも、この場所が江戸時代の城下町の南西端に位置していたことが示されています（[図3](#)、[URL4](#)）。このような城下町絵図や古地図類については、国立国会図書館デジタルコレクション・国立公文書館デジタルアーカイブや東京国立博物館研究情報アーカイブズ、また岐阜市（歴史博物館）のように地方自治体のインターネットサイトなどで閲覧できる場合もあります（[URL5](#)、[URL6](#)、[URL7](#)、[URL8](#)）。

このように、この地域には江戸時代初めに城の裏鬼門を守護する神社が置かれ、大正初めに設置された墓地があり、また昭和初めに第二中学校が移転してきた校地があることなどから、加納高等学校周辺地域は郊外から次第に現在のような市街地に組み込まれてきた地域であると考えられます。

図と表のページ

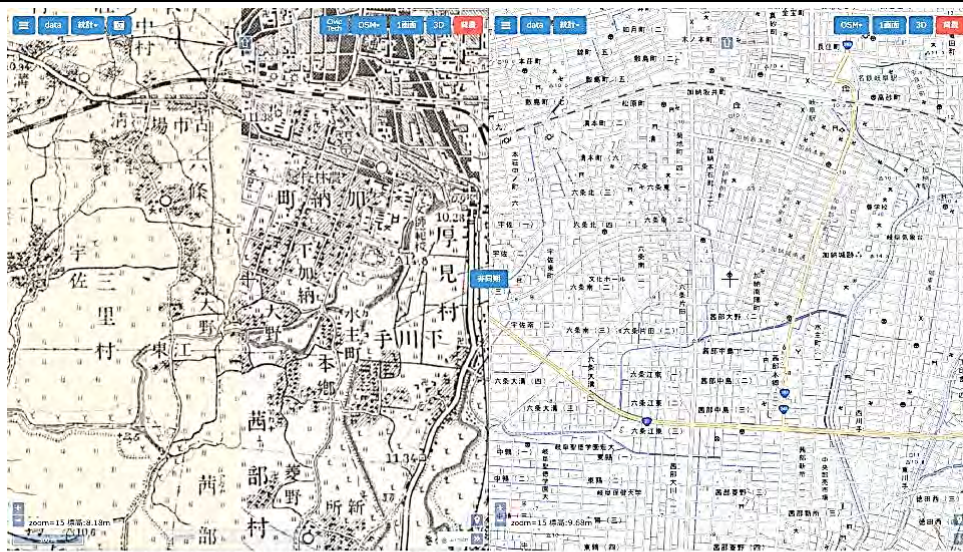


図1 岐阜県立加納高等学校の位置
「ひなたGIS」による表示

右図は地理院地図の淡色地図、左図の中央から東側半分は五万分一地形図岐阜四號岐阜（明治二十四年測圖之縮圖及同三十九年測圖昭和七年第三回修正測圖之縮圖、西側半分は岐阜八號大垣（明治三十九年測圖大正九年修正測圖）。



写真1 加納高等学校前にあった文房具店（2003年8月松井秀郎撮影）



写真2 礫石展示場（2003年8月松井秀郎撮影）

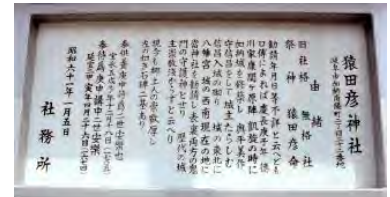


写真3 猿田彦神社の由緒書看板（2003年8月松井秀郎撮影）



図2 実測最新大岐阜市全図 昭和4年（部分）
赤破線は第二中学校の位置を示す。
注：図中のマス目は150m X 150m



図3 加納城下町地図
赤破線は猿田彦神社の位置を示す。

文章ページ

c. 加納高等学校周辺地域の地形と災害

加納高等学校の南側を東から西へと流れる荒田川と校地西側を北から南へと流れる水路との合流点では、かつては工場排水による汚染が見られましたが、2003年時点では透き通ったきれいな河水を見ることができました。(写真4)。これは加納高等学校周辺地域が、岐阜市の中川原付近(金華山北側の長良川「鶉飼い大橋」付近)を扇頂とする半径約6kmの長良川扇状地の、湧水の豊富な扇端地域に位置していることからです。この地域の南方の茜部地区や鶉地区では、かつては水田に自噴井が散見されたということです。これもこれらの地域が扇端と氾濫原の境界地域となっていたからでしょう。

現代の扇状地の範囲については国土数値情報ダウンロードサイトで閲覧できる「5万分の1地形分類図」(岐阜・大垣)でも確認できます(図4、URL9、参照文献2)。一方、古くから乱流し続けてきた河川の扇端と氾濫原との大まかな境界については、例えば遺跡分布図で考えることもできます(URL10、参照文献3)。加納高等学校周辺地域では、「遺物散布地」として六条東遺跡(古代・中世)・加納梅田町遺跡(古代)・大野遺跡(弥生)・茜部本郷A遺跡(古代・中世)・茜部本郷B遺跡(古代・中世・戦国)などが確認されており、湧水も得られ、氾濫原の水田耕作地にも近い扇端地域は、居住地や生産の場として適していたと考えられます。

既然大項目Aなどで学習したように地理院地図で「自分で作る色別標高図」を使って標高図を作成してみると、岐阜市の中心市街地の広がる長良川左岸の扇状地の状態が良く分かります(図5)。これで見ると加納高等学校の校庭周囲の標高は概ね8.5m以下であり、校舎の北側では概ね8.5~9.0mとなっており、北の扇頂方向に順次標高の高い地域が広がっていることが分かります。

加納高等学校の南側には水屋がありました(写真5)。Googleストリートビューで見ると、この水屋では2017年5月時点には蔵が建っていましたが、2021年1月時点・2023年1月時点では石積みの土台のみとなっています。水屋は洪水の際に避難するために設けられ、木曾川・長良川・揖斐川の流域でも多くみられます。ここに水屋があったということは、ここがかつての水害常襲地域であったということであり、また現時点では建物が無いということからは、今では水屋の必要性が小さくなったのではないかと想定できます。もちろん石積みは残っているので、今後水屋が建築されることも考えられ、これは現地での聞き取り調査でしか明らかにならない事柄となります。

なぜこの地域で水屋が建てられていたのかを考える上では、この場所での水害について知る必要があります。これまでの水害については、地理院地図では「災害履歴図(水害)」で知ることができます。この図では校地を含む南東側にも水害を受けた地域が広がっています(図6)。また「県域統合型GISぎふ」の「岐阜市浸水実績(平成2年以降)」によっても、2015(平成27)年には学校の校地を含める北側地域とその南側の河川沿いで浸水被害報告がみられます(図7)。

地理院地図でこうした水害を受けやすい地域についてみると、これらの地域は「明治期の低湿地」に含まれています(図8)。さらに、国の治水対策を進めるために詳細な地形分類及び堤防などの河川工作物等を地図化した「治水地形分類図更新版(2007年以降)」で見ると、加納高等学校の校地は扇状地となっているものの、校地の南側や西側では微高地(自然堤防)や氾濫平野に分類されており、加えて荒田川の旧河道が校地の南側を曲流していたことが読み取れます(図9)。さらに木曾川・長良川・揖斐川の流域では水害に対処するために輪中がつくられており、加納高等学校周辺地域を含める加納輪中が設けられていたことが安藤萬寿男(輪中分布図(国島秀雄原図))の論文によって明らかとなっています(図10)。

また、国土交通省「ハザードマップポータルサイト」から「わがまちハザードマップ」を開き、「岐阜市洪水ハザードマップ」から「岐阜市洪水ハザードマップ長良川(中心部版)」の地図をみると、加納高等学校周辺地域での「予想される浸水の深さ」は0.5~3.0m(床上浸水)と想定されており、加納高等学校は「2階(3m以上浸水する場合は3階)以上への避難が必要な施設」とされていることが示されています(図11、URL11)。そして、学校周辺の公共施設や公園は、洪水時の指定緊急避難場所としては概ね使用不可となっています。

図表のページ



写真4 河川の合流点 (2003年8月松井秀郎撮影)
 写真上：崖頂に近い金剛山のある山麓。写真右側：荒田川の上流部。写真中央：加納
 高校の校地西側を流って流れ下る水路。写真下側：下流方向。



写真5 水車 (2003年8月松井秀郎撮影)

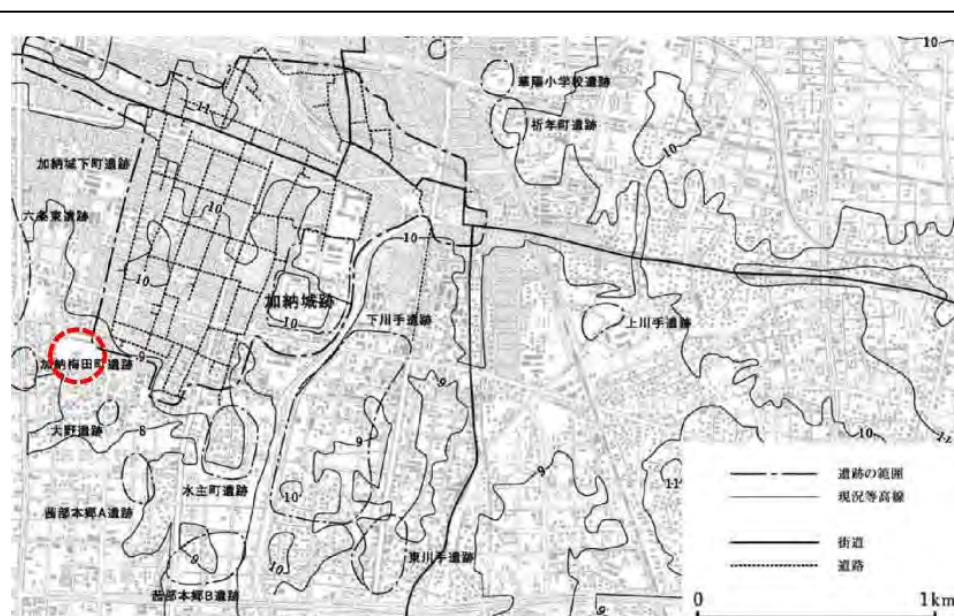


図4 岐阜市南部遺跡分布図 (部分)
 赤破線は加納高等学校の位置を示す。

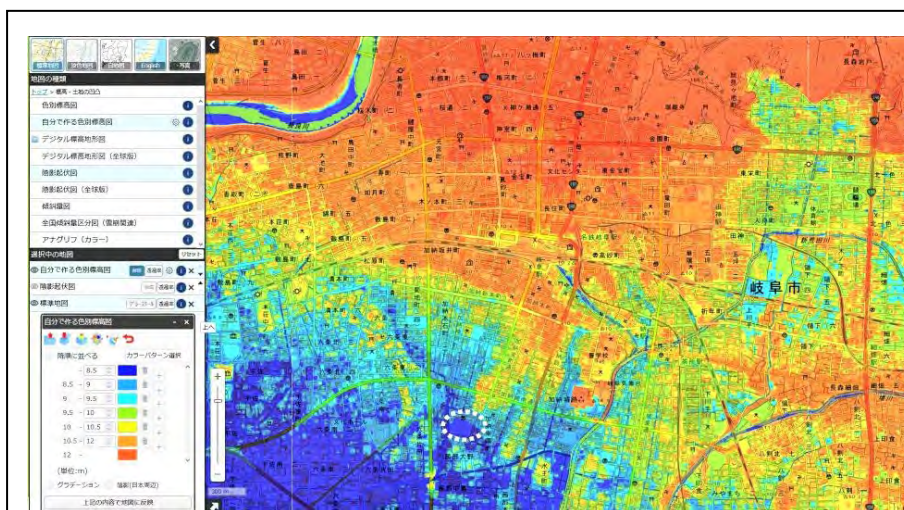


図5 自分で作る色別標高図
 地理院地図により松井秀郎作成
 白破線は加納高等学校の位置を示す。

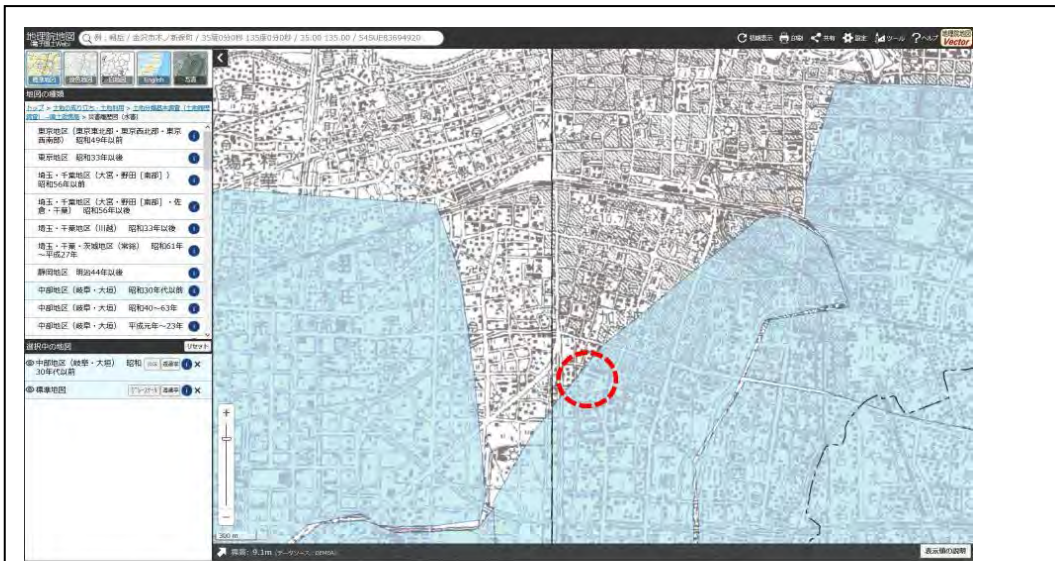


図6 地理院地図 災害履歴図 (水害)
 中部地区 (岐阜・大垣) 昭和30年以前
 赤破線は加納高等学校の位置を示す。

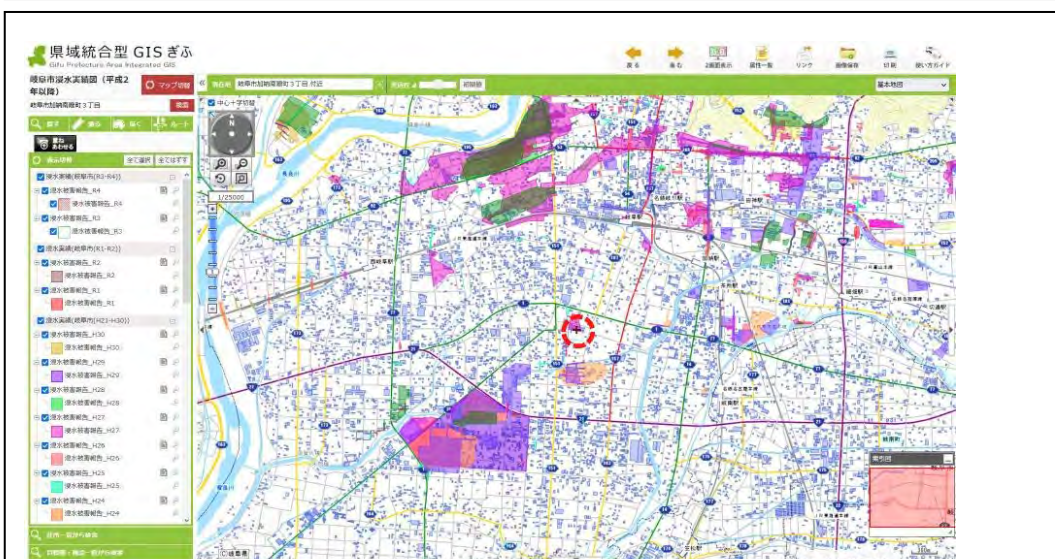


図7 県域統合型GISぎふ
 岐阜市浸水実績 (平成2年以降)
 赤破線は加納高等学校の位置を示す。

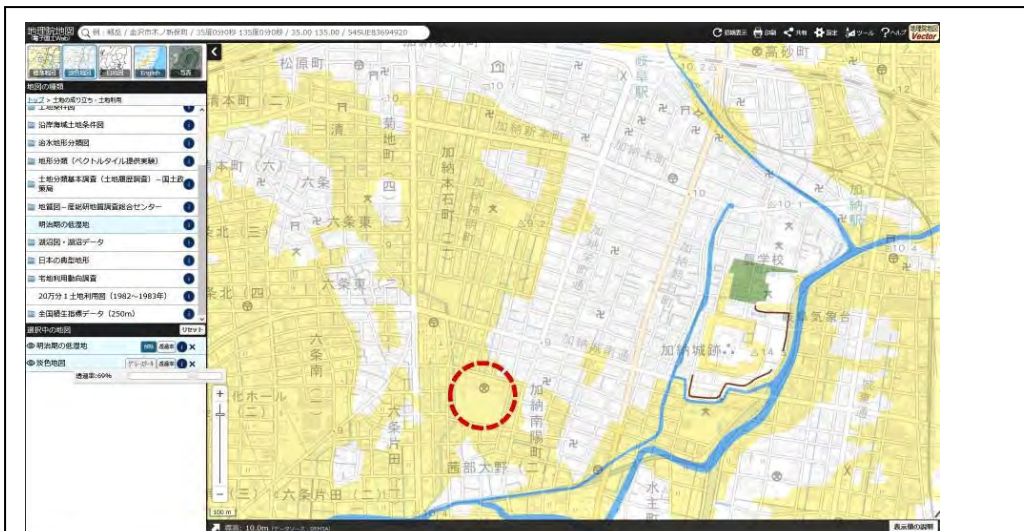


図8 地理院地図 明治期の低湿地

赤破線は加納高等学校の位置を示す。
 学校を含む薄い黄色の地域は、田（水田、陸田）の区分。

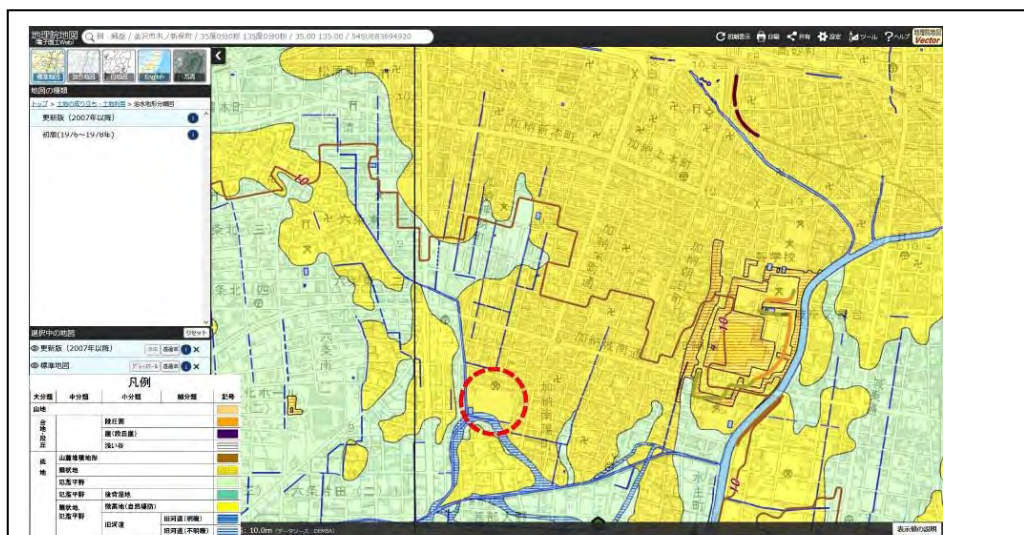
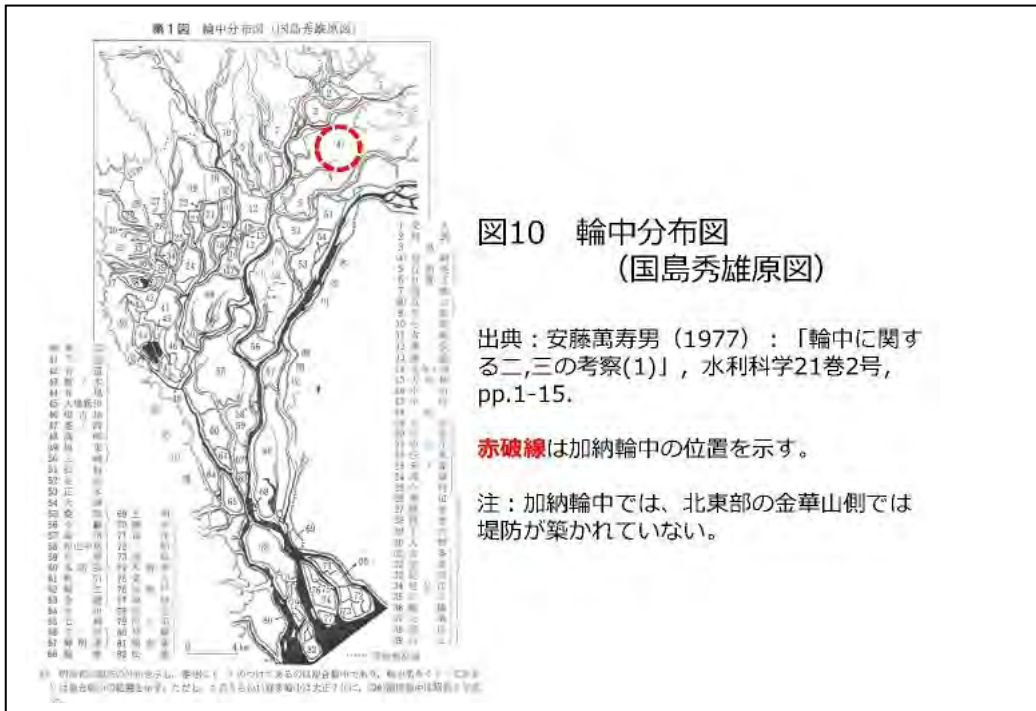


図9 地理院地図 治水地形分類図更新版（2007年以降）

赤破線は加納高等学校の位置を示す。



文章のページ

d. 加納高等学校周辺地域の製造業

加納高等学校周辺地域では、繊維産業・縫製業に関わる事業所がいくつかみられました（写真6・写真7・写真8・写真9・写真10）。これらの表看板を見ると、まず学校の西側の「岐阜西通り」（県道151号線岐阜羽鳥島線）の西側には「高級婦人服 広瀬縫製」、校地の西側には「古田穴カガリ」・「三貴繊維（株）」、校地の南側には「各種ミシン販売修理 厚見ミシン商会」・「エンヤ繊維（株）・吉田商店シバキンアパレル岐阜工場」とあります。これらを Google ストリートビューで見ると、広瀬縫製については2017年4月時点までは写真6の建物がありますが、2022年12月時点では更地となっています。古田穴カガリについては2014年12月時点では写真7とほぼ同様の建物でしたが、2015年6月時点では写真7の右側の建物が撤去されて更地となって、さらに2017年5月時点では住宅が新築されています。三貴繊維（株）は3階建ビル「コーポラス マキ立花」の1階にあり、2階・3階は分譲住宅となっていました。2012年5月時点には建物名が「コーポランド立花」に変わっており、2014年12月時点では三貴繊維（株）のあった1階部分が「リハビリデイサービスげんきサポート（株）Growing」となっています。厚見ミシン商会については、2017年5月時点までは写真8と同様でしたが、2021年1月時点では閉店しています。エンヤ繊維（株）・吉田商店については2021年1月時点でも大きな変化はありません。

このように2003年8月当時には学校周辺を一巡しただけで、ある程度の数の縫製関係・繊維関係やその関連産業の事業所の存在を目視することができました。住宅地に工業関連の事業所が混在している地域を住工混在地域と言いますが、Google ストリートビューで見ると、2003年時点よりも加納高等学校周辺地域では繊維・縫製関係の事業所などが減っています。しかし、こうした事業所の分布の全体像を知るには、歩いて調べるだけでは調査漏れを生じる可能性があります。

岐阜市では既製服産業（アパレル産業）が第二次世界大戦後に勃興し、その後には婦人服、紳士服、子供服、呉服、織物・服地・付属品、ニット・寝具・洋品雑貨などの幅広い製造販売業として発展してきました。これらの事業所の分布を知るには、業界団体の「岐阜ファッション産業連合会」のインターネットで開示されている会員名簿で事業所の所在地を把握して、各種のアドレスマッチングサービスを利用して分布図を作成する方法があります。とは言え、こうした業界団体に加入していない事業所もあります。

そこで、インターネットタウンページで地図表示して調べる方法を併用することもあります。ここでは衣料関連販売・卸の分類で、加納高等学校を中心として「地図の範囲で検索する」の機能で地図表示しました（図12）。これでは8件が検索されました。そして個々の店舗名の下には、さらに細分類の事業内容について繊維製品製造・衣料製造・婦人子供服製造・紳士服製造などの表記があります。このような方法で「生活圈」やこの周辺地域での衣料関連事業所の分布の広がりを検討することが出来ます。

ところで、「c. 加納高等学校周辺地域の地形と災害」で述べたように、荒田川と水路との合流点では、かつては工場排水による汚染が見られました。大正時代（1912～1926年）には岐阜市域に製糸・絹糸紡績・毛糸・毛織物・綿糸紡績・染色などの工場などが立地し、これらの工場排水が荒田川などの下流に流れ込み、河水の汚染が農業・漁業に被害を及ぼしたからです（参照文献4）。昭和初期における下流農漁民の抗争の結果、数々の污水対策が進められ、河水は本来の姿を取り戻しました。一般的には住工混在地域では、市街地への工場進出や郊外での住宅地化の進展に伴い、それまでには見られなかったり、等閑視されていた工場騒音や廃水、貨物自動車の頻繁な往来などが地域問題となる場合があります。地域の現象については、事象との関連で、河水の色（水質汚濁）、臭い（大気汚染・粉塵飛散）音（騒音）などを観察することも必要です。

e. 加納高等学校周辺地域の大規模小売店舗や高層マンション

加納高等学校の北には「城南通り」（県道1号岐阜南濃線）が通り、この道路の北側沿いには1993（平成5）年6月に開店した大規模小売店舗の「アピタ岐阜店」（売り場面積13,381m²）がありました（写真11）。また14階建てマンション「ファミリー加納」があり、建築中のマンションもみられました（写真12・写真13）。Google ストリートビューで見ると、「アピタ岐阜店」は2019年8月時点では写真11の通りでしたが、2021年1月には立体駐車場屋上の看板は「UNY」となっています。これは「アピタ岐阜店」が2019年12月に閉店し、同建物に「MEGA ドン・キホーテ UNY 岐阜店」が2020年3月に開店したことによるためです。「ファミリー加納」については2023年1月時点でも写真12と変化はありませんが、建設中であった写真13のマンションは14階建ての「モアグレース六条東」として立地しています。

図表のページ



写真6 広瀬縫製 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真7 古田穴カカリ (2003年8月松井秀郎撮影)



写真8 工場下駄ばき分譲住宅 (2003年8月松井秀郎撮影) 三齒織維 (株)



写真9 厚見ミシン商会 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真10 エンヤ織維(株)・吉田商店 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真11 アビタ岐阜店 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真12 高層マンション「ファミリー加納」 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真13 建設中の高層マンション (2003年8月松井秀郎撮影)

タウンページ

＜リスト表示＞

「衣料関連販売・卸 岐阜県岐阜市 六条片田周辺」の検索結果

8件

- 1 エンヤ織維株式会社
岐阜県岐阜市 卸
- 2 有限会社フカイ
卸 衣料
- 3 株式会社ディーエイトトレード
岐阜県岐阜市 卸
- 4 株式会社イマズ
岐阜県岐阜市 卸
- 5 株式会社アドヴァンス
岐阜県岐阜市 卸
- 6 タカハシ商事株式会社
岐阜県岐阜市 卸
- 7 株式会社ロンチェスター
岐阜県岐阜市 卸
- 8 株式会社山崎商事
岐阜県岐阜市 卸

図12 iタウンページ 衣料品関連販売・卸
加納高等学校を中心として「地図の範囲で検索する」
で作成。

文章のページ

高層マンションが特定地域に増えると、その統計地域の人口が急激に増えます。人口変動や人口密度の増減、人口の少子高齢化など多種多様な統計類（国勢調査、人口動態調査、メッシュ別将来人口推計、事業所・企業統計調査など）については、大項目 A でも学んだように「政府統計の総合窓口 e-Stat」から得ることが可能であり、また「地図で見る統計 jSTAT MAP」で簡単に地図化してこれらを比較検討することができます。こうして地図化する際には、対象となる課題や課題に関わる諸事象を含む調査の全体像を大観できるように、「生活圏」とこれを含む関連地域まで地域的範囲を広めて分析することが大切です。加納高等学校周辺地域のように比較的狭い地域では、国勢調査小地域や 5 次メッシュ（250mメッシュ）などの、より小さい統計地域で地図に表わすと、「生活圏」内外での地域変化が読み取り易くなります。

「城南通り」沿いでは高層マンションが建設されていますが、加納高等学校の周囲の地域では高層マンションはみられません。この理由は用途地域の指定によるもので、地域調査の際には自治体の都市計画図などを確認することが大切です。「城南通り」沿いや「岐阜西通り」沿いの地域は「近隣商業地域」に指定されています。これらを除く加納高等学校の周囲の加納堀田町・加納大黒町・加納奥平町・加納西山町・加納南陽町・茜部大野辺りは市街化区域の「第 1 種住居地域」に指定されており、住居専用地域よりは規制が緩いものの、快適な住環境が守られています（図 13、URL12）。また国税庁の「財産評価基準書 路線価図・評価倍率表」では、道路・地区毎に詳細な路線価の地図も公開されています。これは当該年度中の相続税及び贈与税の財産を評価する場合に適用されるもので、この路線価を年度毎に比較すると地域の相対的な土地評価の変化を捉えることができます（図 14、URL13）。

f. 加納高等学校周辺地域の観察や野外調査による地域性格（地域性）の把握

加納高等学校周辺地域を観察すると、まずは道路の信号機や横断歩道橋の横などに書かれている地名表記、例えば「茜部大野 2」のような地名を頼りにして地域の歴史を調べる事もできます。加納高等学校南側の地域に広がる「茜部」（あかなべ）は、かつての岐阜県稲葉郡茜部村に属していた地域であり、1950（昭和 25）年に岐阜市に編入されました。このことは国立公文書館デジタルアーカイブで確認できます（図 15、URL14）。また国立情報学研究所の歴史的行政区域データセットでは「行政区域境界の歴史的変遷」を地図表示で見ることができます（図 16、URL15）。この「茜部」は時代を遡れば 9 世紀に成立した東大寺領荘園（茜部荘）の辺りであり、「美濃國茜部庄文書」を東京大学学術資産等アーカイブズポータルで読むことができます（URL16）。学校所在地である「加納」は、国立公文書館デジタルアーカイブで調べると旧岐阜県稲葉郡加納町であり、1940（昭和 15）年に岐阜市と合併しました。なお、古今の地名の由来などについては、都道府県別に集大成された『角川日本地名大辞典』（全 51 巻）などの辞典類や市町村史などで調べることもできます。

生徒も日頃には何気なく見ている通学路沿いの事物や建物であっても、これらをその場所の位置と広がりや地理的な関連、歴史的な変化、社会情勢の変化などから考えると、社会的事象や現象として見出すことが可能です。本稿で取り上げた写真の撮影地点などのように、歩いて回れる範囲内でもいろいろの事象や現象に気づかされます。以上に取り上げてきた事象に、2003 年 8 月に加納高等学校周辺地域で図 17 の緑線のルートを歩いて観察できた事象を加えて地域性格（地域性）を考えてみましょう（図 17）。

2003 年時点の写真と Google ストリートビューによるその後の変化から、写真 1 の①二中堂では、学校の周囲に立地した文房具店という事象の閉店といった時代変化が読み取れます。写真 2 の⑦墓石展示場では、墓地周辺に立地する事象の時代変化が読み取れます。写真 3 の⑰猿田彦神社の由緒看板では、神社の位置と旧加納城下町との位置関係を知ることができます。写真 4 の⑱河川の合流点での河水の透明度からは、長良川扇状地末端からの湧水との関連を想像することができます。写真 5 の⑮水屋では、水害常襲地域での住民の防災意識の変化を観取できます。写真 6・写真 8・写真 9 の⑧広瀬縫製・⑩三貴繊維・⑭厚見ミシン商会のように事業所がなくなったところでも、広瀬縫製のように更地となったもの、厚見ミシン商会のように建物は残っているもの、三貴繊維のように下駄履き工場であったところにサービス業（リハビリデイサービス「げんきサポート」）が入居したものなどの違いがあります。写真 7 の⑲古田穴カガリと写真 10 の⑯エンヤ繊維（株）・吉田商店シバキンアパレル岐阜工場は営業継続していますが、古田穴カガリでは工場の南半分が住宅となって、工場が縮小しています。

写真 11 の⑤アピタ岐阜店は「MEGA ドン・キホーテ UNY 岐阜店」に業態転換し、購買者をより若年層の消費者にも広げられるようになりました。住宅地化では、写真 12 の④高層マンション「ファミリー加納」に、写真

図表のページ



図13 GISぎふ 岐阜市都市計画情報
赤破線は加納高等学校の位置を示す。



図14 国税庁 財産評価基準書 路線価図・評価倍率表
赤破線は加納高等学校の位置を示す。

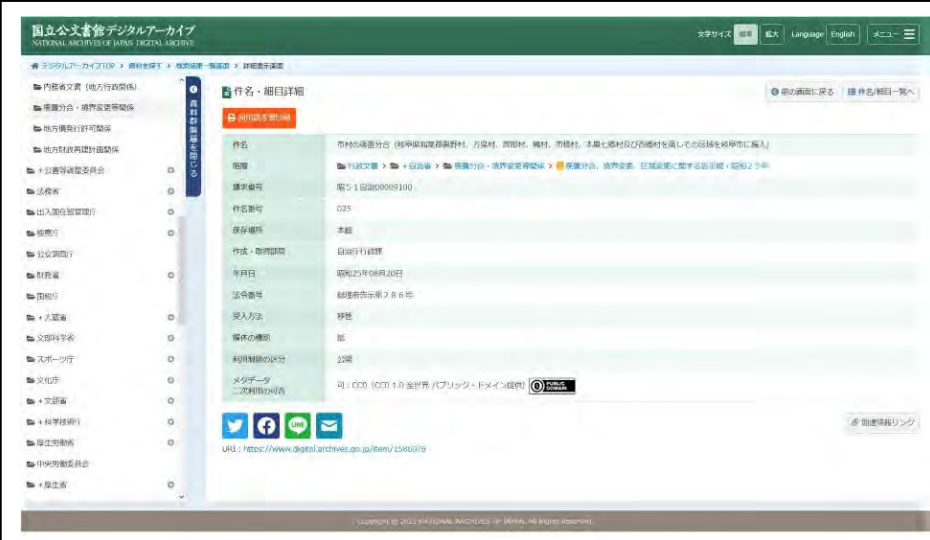


図15 茜部村の岐阜市への編入について
国立公文書館デジタルアーカイブの画面



図16 茜部村の行政区域境界の歴史の変遷
国立情報学研究所の歴史の行政区域データセット
行政区域境界の歴史の変遷の画面
赤破線は加納高等学校の位置を示す。

文章のページ

13の⑥建築中の高層マンション「モアグレース六条東」が完成して加わりました。

写真1～13とは別に2003年時点で観察したのは、ルートマップ上の②袖うだつのある家(写真14)、③金刀比羅神社(写真15)、⑨片田神社(写真16)、⑫自動車ディーラー(写真17)などです。古くからの町家造りの袖うだつ(切妻の両側の軒下に造られた袖壁)のある家は旧城下町に近い場所にありましたが、現時点では2軒の住宅に建て替えられています。創建年次不明ですが③金刀比羅神社は旧加納城下町に近い場所にあり、航海安全と豊漁祈願の神様として舟運や内水面漁業との関連が考えられます。また⑨片田神社は水上守護や農耕地主の神として郊外の六条に祭られています。⑫自動車ディーラーは「岐阜西通り」沿いに岐阜トヨタ六条店とスズキアリーナ六条がありましたが、Googleストリートビューで見るとトヨタのあった場所は2014年12月には更地となり、2015年6月には「井ノ口珈琲」の店舗建築がはじまり、2017年5月には営業しています。またスズキは2017年5月時点では岐阜南店に移転統合され、この跡地には2022年12月時点ではキャンピング&アウトドアアパレルを販売する「YOCABITO」のセレクトショップが開店し、都市的土地利用度が高まりました。

図17では、このような2003年頃の地域の特徴を破線で地域区分し、地域的配置の傾向を示しました。加納高等学校周辺地域は北側から延びる長良川扇状地の扇端地域にあたり、学校の南側・西側は広く氾濫原となっていて水屋のみられる水害常襲地であったこと。学校の東側では袖うだつのある家など昔の様式の家があり、江戸時代からの町割りの影響の残る比較的古くに住宅地化された地域であること。学校周囲では住宅と縫製業・繊維業関連工業の住工混在地域の様相を呈していたが、工業地域の様相は減衰して一層の住宅地化が進んできたようであること。学校の北側などの道路沿いでは高層マンションの増加や大規模小売店舗の業態変化、西側の道路沿いでも自動車販売から、より都市的販売機能の店舗への変化が見られること。そして、岐阜市の中心地から郊外方向に都市化や住宅地化の波が次第に及んできて、この加納高等学校周辺地域にも影響を強めていることなどが考えられます。

(2)「生活圏」に関する疑問や問題意識から地域問題を考える

(1)での、加納高等学校周辺地域での観察や野外調査などによって、この地域の特徴や地域を取り巻く状況について把握できたら、この地域に関する疑問や問題意識から地域問題について考えてみましょう。

例示すると、「かつての水害常襲地域であったが、水屋の建物の廃却に見られるように、住民の水害に対する危機意識は低くなってきているのではないか」、「学校周辺の公共施設や公園の多くは、洪水時の指定緊急避難場所としては使用不可となっているが、加納高等学校周辺地域からの避難をどの様にすればよいか」、「加納高等学校周辺地域での縫製業・繊維業関連の産業地域は衰退してきているのか」、「繊維・縫製などの事業所はどの様な場所(中心街に近い方)から減少してきたのか」、「繊維・縫製などの事業所の減少した要因はなにか」、「工場騒音や貨物自動車の頻繁な往来などが地域問題となっていないか」、「大規模小売店舗の変化は、人口の急増や高齢化などの地域の人口構造や消費者行動の変化と関係していないか」、「城南通り沿いの高層マンションの立地する場所では、人口の急増によって小学校の定員超過などの地域問題が起きていないか」、「加納高等学校周辺地域では、何時ごろにどこまでか、どのように郊外から市街地に組み込まれてきたのか」、「都市的土地利用はどの様に地域に進展してきて影響を及ぼしてきたのか」などが挙げられます。

これらのような「生活圏」での地域問題については、検証や解決を目指した現地調査といった作業的で具体的な体験を伴う学習が想定されますが、現実には実施に困難を伴う場合もあり、「内容の取扱い」に示されているように生徒の特性や学校所在地の事情などを考慮して、課題を設定し、観察や調査を工夫して実施することが想定されています。

地域の観察や野外調査などによって明らかとなった事実を基に、疑問や問題意識から地域問題が認知され、地域問題の中から、人々に課される解決すべき地域課題が認識されてきます。

3.「内容」の小項目イ(7)の「生活圏の地理的な課題」における学習内容に繋げる準備について

1. 2. で記述してきたように、生徒自らが観察や野外調査を行い、作成した分布図やインターネットなどから得た各種の資料などを活用しながら、自分たちの「生活圏」では何が解決すべき課題なのかを、また持続的発展のためにはどの様な対処が必要なのかなどを、グループに分かれて話し合うなどの工夫をして、学習効果を上げることが求められています。

図表のページ



写真14 袖うだつのある家 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真15 金刀比羅神社 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真16 片田神社 (2003年8月松井秀郎撮影)



写真17 自動車ディーラー (2003年8月松井秀郎撮影)



図17 加納高等学校周辺地域の観察ルートマップ

- ①二中堂
- ②袖うだつのある家
- ③金刀比羅神社
- ④高層マンション
- ⑤アピタ岐阜店→MEGAドン・キホーテUNY岐阜店
- ⑥建設中の高層マンション
- ⑦墓石展示場
- ⑧広瀬縫製
- ⑨片田神社
- ⑩古田穴カガリ
- ⑪工場下駄履き分譲住宅、三貴繊維
- ⑫自動車ディーラー
トヨタ→井ノ口珈琲
スズキ→YOCABITO
- ⑬河川の合流点
- ⑭厚見ミシン商会
- ⑮水屋
- ⑯エンヤ繊維・古田商店
- ⑰猿田彦神社の由緒書看板

文章のページ

岐阜市では、多分野にわたる「市の政策と計画」をインターネットで公表しています。「ぎふし未来地図」では未来都市像を描き、「地域ごとのめざす姿（2022年）」の中で、加納高等学校周辺地域は13の地域生活圏の中の「中央部②（加納東・加納西・茜部・厚見）」に含まれ、「日常生活の中に歴史が息づくまち」・「多世代が交流し、見守り支え合うまち」・「名鉄名古屋本線の高架化の促進などによる安全で安心な住みやすいまち」の3つがめざす姿として挙げられています（URL17）。そして令和5年度から令和9年度の「（第5次）岐阜市環境基本計画」なども、地域の持続的発展を考えるうえで大きな参考となります（URL18）。「生活圏」に関する地方自治体の発信する政策や計画は、地域の変化の枠組みとなっており、これらを把握しておく事も持続可能な在り方を展望する上で大切です。

また岐阜市の住宅地に関する報告書では、「岐阜市空家等対策計画 平成30年5月」があります。ここには「一戸建住宅等の築年次別の分布」・「高齢者のみが居住する一戸建住宅等の分布」・「一戸建住宅等の新築、売買物件の分布」・「老巧度判定別空家の分布」など、住宅地の地域問題を考える際に適切な資料が豊富に含まれています（URL19）。

住民の意識調査結果も地理的な課題を検討するうえで参考になります。岐阜市が実施した「令和4年度市民意識調査」ではSDGsに関する設問もありました。この中ではSDGsの17の目標の内、岐阜市が特に取り組む必要のある目標に該当する項目として、50%以上（サンプル総数1,490人で、該当項目3つを選択し、項目ごとに全員選択の場合100%）の人が「すべての人に健康と福祉を」・「住み続けられるまちづくりを」を挙げています（URL20）。

この小項目で活用できる都市の3Dシミュレーションとして、国土交通省で進めているPLATEAU（プラトー）プロジェクトがあります（URL21）。PLATEAUは、国土交通省の推進する3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化のプロジェクトであり、誰でもが統合・可視化された都市情報をインターネットで得ることができます。岐阜市（2020年度）の3D都市モデル（Project PLATEAU）を参照することも、地理的な課題を検討する有用な探究法となります（図18、URL22）。

「内容」の小項目ア（7）で収集した多様な資料や材料を基に、生徒同士の活発な議論を展開して、結論を裏りあるものにするためには、上記のような行政の政策方針や諸計画を把握したり、地域住民の意向を的確に掴んだり、「生活圏」での将来人口や経済成長などのシミュレーションを行うことも有効です。また学習目標の達成には、KJ法やブレインストーミング、アイディアソン、ハッカソンなどのアクティブ・ラーニングの手法を活用するための準備を、指導者側で十分に行っておく事も大切となります。



図18
3D都市モデル
岐阜市
(2020年度)

国土交通省 PLATEAU About Map the New World
<https://www.mlit.go.jp/plateau/about/> より引用

【参照 URL】（最終閲覧日：2023 年 4 月 12 日）

- URL1 : 岐阜県学校間総合ネット（岐阜県教育委員会事務局）
https://www.gifu-net.ed.jp/kyoka/syakai/09chiri/2003chiikichosa/2003chiikichosa2_Matsui.pdf
- URL2 : HINATA GIS 地理情報システム ひなた GIS（宮崎県デジタル推進課）
<https://hgis.pref.miyazaki.lg.jp/hinata/>
- URL3 : 岐阜県図書館
<https://www.library.pref.gifu.lg.jp/mapdata/2-34-3.htm>
- URL4 : (公) 岐阜市教育文化振興事業団
https://gikyobun.or.jp/maibun/img/map_kanoujoukamachi.jpg
- URL5 : 国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/ja/>
- URL6 : 国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/>
- URL7 : 東京国立博物館研究情報アーカイブズ
<https://webarchives.tnm.jp/>
- URL8 : 岐阜市歴史博物館
<https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/collection/map/>
- URL9 : 岐阜市教育委員会（財）岐阜市教育文化振興事業団 史跡加納城跡 2
http://www.gifu-gif.ed.jp/org/maibun/siryou/KN2_houkokusho.pdf
 (公) 岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所ホームページは下記に移転
<https://gikyoubun.or.jp/maibun/>
- URL10 : 岐阜市文化財保存活用地域計画 資料編
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/661/gifushi-siryouhen.pdf
- URL11 : 岐阜市洪水ハザードマップ
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/360/nagara_centralmap_light_s.pdf
- URL12 : 県域統合型 GIS ぎふ
<https://gis-gifu.jp/gifu/PositionSelect?mid=1685>
- URL13 : 財産評価基準書 | 国税庁
<https://www.rosenka.nta.go.jp/>
- URL14 : 国立公文書館デジタルアーカイブ 市村の配置分合 茜部村
<https://www.digital.archives.go.jp/item/1586078.html>
- URL15 : 岐阜県稲葉郡茜部村 国立情報学研究所の歴史的行政区画データセット 行政区画境界の歴史的変遷
<https://geoshape.ex.nii.ac.jp/city/resource/21B0030001.html>
- URL16 : 東京大学学術資産等アーカイブズポータル 美濃國茜部庄文書
<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/d7129511-031b-4cfc-a522-4c44ded12279>
- URL17 : 岐阜市 市政情報 市の政策と計画 ぎふし未来地図 未来都市像 地域ごとのめざす姿 (2022 年)
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/489/3miraitoshizu_s.pdf
- URL18 : 岐阜市 市政情報 市の政策と計画 環境 (市の政策と計画) 岐阜市環境基本計画
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/019/223/kankyokihonkeikaku.pdf
- URL19 : 岐阜市 市政情報 市の政策と計画 市民政案 (市の政策と計画) 岐阜市空家等対策計画
https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/566/honpen.pdf

URL20 : 岐阜市 市民意識調査 令和4年度市民意識調査

<https://www.city.gifu.lg.jp/info/seisaku/1006500/1006493.html>

URL21 : 国土交通省 PLATEAU About Map the New World

<https://www.mlit.go.jp/plateau/about/>

URL22 : G空間情報センター 3D都市モデル (Project PLATEAU) 岐阜市 (2020年度)

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/plateau-21201-gifu-shi-2020>

【参照文献】

参照文献1 : 稲永幸男 (2017) : 「地理学における調査の基本 (地理学の8段階)」, 『Field Note (改訂版)』二宮書店, pp. 18-21.

参照文献2 : 岐阜市教育委員会 (2010) : 『(財)岐阜市教育文化振興事業団報告書第18集 史跡 加納城跡2』, 204頁.

参照文献3 : 岐阜市・ぎふ魅力づくり推進部・文化財保護課 (2020) : 「資料編 2 埋蔵文化財包蔵地一覧」, 『歴史遺産を活かしたぎふ魅力づくり 岐阜市文化財保存活用地域計画』, p103.

参照文献4 : 岐阜市 (1981) : 「荒田川公害反対運動」, 『岐阜市史 通史編 近代』, pp. 522-531.

【参考文献】

1. 稲永幸男 (1976) : 「地理学研究法についての私見」, 立正大学文学部論叢, 55, pp. 15-68

2. 松井秀郎 (2015) : 「地理エクスカージョンの視点と地理教育」, 伊藤徹哉・鈴木重雄・立正大学地理学教室差『地理を学ぼう 地理エクスカージョン』, 朝倉書店, pp. 9-16.

3. 沢田裕之・松井秀郎 (2017) : 「野外調査の手引」, 『Field Note (改訂版)』二宮書店, pp. 2-17.
-16.

4. 松井秀郎 (2018) : 「主体的・対話的で深い学び」を目指す地理的能力の育成」, 碓井照子編『「地理総合」ではじまる地理教育 ー持続可能な社会づくりをめざしてー』, 古今書院, pp. 132-143.